

(様式 3)

平成 24 年度学融合推進センター学融合研究事業 研究成果報告書

研究テーマ名称	観相資料の学際的研究
応募事業区分	支援区分(A)「戦略的共同研究 I」 「新課題抽出支援」
申請代表者氏名	相田 満

○ 研究状況報告

今年度は以下 A-C の観点での研究活動を行った。

A 観相(人相占い)の实地踏査・研究会(打合せ)の実施:

観相の実態を知るために以下の 3 か所での实地踏査と、取材先の宿泊所における研究打合せ(研究報告会)を実施した。実施場所は以下の 3 都市である。

台湾 2012 年 9 月 台北市 行天宮・士林夜市街・龍山寺

2013 年 3 月 3-4 日 台北市 士林夜市街・龍山寺

中国西安 2013 年 1 月 9 日 八仙宮前 占い街

研究打合せ 2013 年 2/3 月 於:国文学研究資料館

日本 東大阪市 2013 年 3 月 10-11 日 石切神社前参道占い街・研究報告会

以上の各地で、延べ 30 回の実践調査を行ったが、各地それぞれ特徴があることがわかった。第一に、占い街で掲げられる看板に観相(人相)を標榜している箇所が極めて少ないことである。特に日本の石切神社では 100 件以上ある店の中で 1 件しかない。大阪府東大阪市東石切町の石切神社門前の占い通りで開業する占い師の言によると、観相は時々刻々と変化していくため、法則性を見だし得ないとのこと。そのため、観相・手相などは総合占いで扱い、その他、米粒占い(易占の簡略版)、四柱推名などをあわせて勘案して運勢を判断しているとのことであった。

石切神社の調査においては、中国人留学生の総研大院生と、その先輩の留学生にも調査に参加してもらい、日本における占いを体験してもらった。大陸中国における占いの店は、共産党が占いを公には認めていない関係もあって、観光パンフレットにはまず案内のない所が多い。今回の調査に同行してもらったことにより、吉林・福建の占い調査のための道筋が出来たことも収穫であった。

なお、調査に要する時間はまちまちで、中国西安や日本石切神社においては 1 回 40 分以上の時間を要した。中国においては、店内が七輪ストーブの暖房だけの吹きさらしの中であったため、1 回の調査しか行なえなかった。

国文学研究資料館における打合せは、主に観相を情報学的に分析するために、資料の画像解析の手順とデータづくりについての打合せを行った。解析資料には、観相とビックマップデータベースに使用する相書に掲載される画像資料を使用することにした。

これらに書かれた絵は、たとえば尊貴の相が複数の絵に描かれているが、絵柄が各書で全く異なるものの、どこか共通性がある。しかし、統計的分析を行うにはその類似性の距離差があまりに大きく、新たなスキームを開発しないと単純な計算が難しいことも判明した。

B 相書の書誌的調査

青森県弘前市立弘前図書館の蔵書調査を調査した(2012 年 9 月 24-26 日)。のべ 50 種の相書を

(様式 3)

平成 24 年度学融合推進センター学融合研究事業 研究成果報告書

調査し書誌カードを記録した。

これは国文学研究資料館の調査事業として、合わせて行うことが出来た。すなわち、調査終了後、カードは事業部に寄附しただけでなく、調査先を典籍の半数ほどを年度中にマイクロ撮影することができた。今年度中に撮影した典籍は平成 25 年度中からインターネットで閲覧でき、紙焼き写真の発注も可能になる予定である。

C 観相トピックマップ (Topic-Maps) データベースの構築を行なった。

○ 当該事業年度において達成された研究成果

A 観相トピックマップデータベースの構築・公開 (<http://topicmaps-space.jp/physiognomy4/>)

データベースの機能が向上し、データベースの文字列検索が可能になった。また、新たにデータ追加し、以下の相書に記述される人相(顔および眉・口などの各部位)の画像とテキスト検索を加納にした。データベースに搭載した書名は以下の通り。(※が今年度)

永代雑書万暦大成、慶安版神相全編、神相全編正義、増積麻衣相法全編(同治 12[1873 年]重鑄・善成堂蔵板)、※国宝大雑書(嘉永 6 年[1853]刊・興文堂主人輯・柳川重信画)、※人相小鑑大全・※万延元年版(万延元年[1860]刊・正宝堂蔵版、喜多村江南軒述)

なお、知識の表現と交換に関する ISO 標準のデータベースの規格で、「トピックマップ」という言葉で Google 検索を行うと、Wikipedia に続いて 2 番目にこの構築データベース(観相トピックマップ)が出現するようになった。(約 2,910,000 件中 H25.4.10 確認)

B 観相に関する言説の整理・収集

観相ほか日本における古今の言説が掲載される百科全書『古事類苑』データベース (<http://base1.nijl.ac.jp/~kojiruie/index.html>) のデータベースにおいて、方技部の全文データベースの入力を完了し、公開に向けての最終チェックを進めた。

○ 本研究を基に発表した論文と掲載された雑誌名等のリスト (論文があれば添付)

※印については別途論文を添付した。

※相田満・渡辺信和, 聖徳太子の観相, 水門 24, 勉誠出版, 2012.9, 査読有

※青山英正「古典知としての近世観相学—この不思議なる身体の解釈学」、前田雅之[編]『アジア遊学』155, pp.196-214, 勉誠出版, 2012.7.31.

青山英正「近世観相書目」、『明星大学研究紀要 人文学部日本文化学科』第 21 号、明星大学人文学部日本文化学科, 2013.3.31

相田満, 人間観察から生まれた観相のもたらした文化と言説, 『輔仁大学日本語日本文学』第 39 輯, 2013.4.30 (予定), 査読有

(様式 3)

平成 25 年度学融合推進センター学融合研究事業 研究成果報告書

研究テーマ名称	観相資料の学際的研究
応募事業区分	戦略的経費
申請代表者氏名	相田満

○ 研究状況報告

知識体系を知るための観相調査地として、日本では鹿児島・東京府中市、中国では福建省泉州市において実地調査を行った。

また、観相の言説調査では、青空文庫に収録されている作品を利用して、そこから観相に関わる言説の網羅的発掘を行った。中国のものについては、現在ネットに流れている観相資料の情報収集を進めた。

古典絵画の分析については、古典絵画の観相的分析を行い、足利尊氏を像主とすることについて意見が割れていた『騎馬武者像』について反証となる西川祐信（1671～1751）の挿絵画と、絵描きが観相の心得を身につけていたとする文献の提示、感性分析による印象比較の結果を提示することを傍証とする発表を行った。

その他としては、福建で行った観相調査の手配をしていただいた華僑大学の黄徳海先生から講演依頼を受け、2014年3月25日に華僑大学厦門校区で観相をテーマに相田が講演「文化和话语在日本的面相」を行った。その際、データベースを構築してそれを基に論を組み立てる手法の着実さに対して高い評価を得た。

また、情報・統計学的手法による分析については、2013年度末に公開している観相トピックマップに使用されている9種類の典籍から収集した顔の部品について、吉凶を判定する統計解析を行い、それを元に画像解析で自動的に吉凶の解析ができるかどうかの基本作業を完了した。結果については次年度になる。

同様に、SD法を利用した感性分析アンケート調査による集計が25年中に終了した。

○ 当該事業年度において達成された研究成果・今後の展望等

日本における近代以降の観相の言説の発掘調査については、ほぼ完了した。

24年度に行われた観相書の書誌調査を行った弘前市立図書館の蔵書は、今回の調査も機縁となって、国文学研究資料館で進められる「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」における全書籍デジタル化計画に組み込まれ、総ての観相書がデジタル化されることに決定した。

観相の実態調査については、研究班と相談した結果、観相の実践教室を受講して、書物による実践と比較した後に、実態調査を行う形で進めることで合意した。そこで、年度前半に観相の実践方法を受講し、その際、学術セミナーの実施方針を打合せ、それぞれの研究を深めた後に年度後半に公開セミナーを行うこととした。

情報学的分析については、分担者の結果待ちの状態だが、結果次第では国際学会における研究発表(PNC)を予定している。データベースについては、小規模ながらデータの追加と見直しを行う。

なお、本研究成果のさらなる継続的發展を図るため、次段階の研究プロジェクトの申

(様式 3)

平成 25 年度学融合推進センター学融合研究事業 研究成果報告書

請を考えている。また、今回の研究は所属所でも注目されており、収集した資料あるいは館内所蔵の関係資料を展示する行方予定である。

ついでながら、本研究成果は、マンガ研究者の注目を浴びており、4/29-5/6 東京秋葉原で行われる「絵師 100 人展 04」(<http://www.eshi100.com/>) 図録に、本研究成果の内容が紹介されることになったことを付記しておく。

- 本研究を基に発表した論文と掲載された雑誌名等のリスト (論文があれば添付)
- ・相田満「人間観察から生まれた観相のもたらした文化と言説」、『日本語日本文学』39, 台湾輔仁大学, 2013 年 4 月, pp1-16, 査読付 (公開リンク↓)
<https://dl.dropboxusercontent.com/u/82113883/1020506%E6%97%A5%E6%9C%AC%E8%AA%9E%E6%97%A5%E6%9C%AC%E6%96%87%E5%AD%B8%E7%AC%AC39%E8%BC%AF%28%E5%B7%B2%E4%BF%9D%E5%85%A8%29.pdf>
 - ・相田満, 騎馬武者像再考—西川祐信『絵本武者備考』を起点として観相の視点から考える一, 和漢比較文学会第 6 回特別例会和漢比較シンポジウム 2013 要旨集・予稿集, 2013.8
 - ・相田満, 古典国文学研究からマンガ研究を見る, 情報処理学会研究報告. 人文科学とコンピュータ研究会報告 2014-CH-101(10), 1-3, 2014-01-18
<https://dl.dropboxusercontent.com/u/82113883/sig-CH101-aida.pdf> (公開リンク↓)
 - ・三田明弘, 『太平広記』観相説話の分析, 和漢比較文学会第 6 回特別例会和漢比較シンポジウム 2013 要旨集・予稿集, 2013.8
 - ・三田明弘, 『太平広記』「相」部の編纂構造と日本の観相説話、三田明弘、『説話』、査読有、第 12 号、2014(発行予定)